

色なんて関係ない！

田園調布学園高等部 1年 臼井 彩葉乃

アメリカを中心に人種差別の問題が深刻化している。二〇二〇年五月に、アメリカミネソタ州で起きた警察官による拘束により黒人男性が死亡した事件に端を発し、「ブラック・ライブズ・マター」という運動が起きた。私はこのニュースを聞いてからずっと胸がざわついている。さらにこのエッセイを書いている最中に事件が起きた。今度はウィスコンシン州で警察官が黒人男性を背後から複数回銃撃する事件が起きてしまった。この事件を受けてか、テニスの大坂なおみ選手が一時的に大会出場を辞退するなど波紋を広げた。実際に銃撃される映像も繰り返し流されていた。私の胸はさらにざわついた。

私には黒人の親戚がいる。日本人である母の妹がケニア人の男性と結婚し、二人の男の子がいる。私のいとこだ。今はアメリカのノースカロライナ州で暮らしている。見た目は黒人である。彼らは日本語が話せるので私と話もできるし、とても性格の良い子たちだし、何といてもれっきとした私の親戚だ。アメリカの人種差別問題の根深さは日本人である自分にどこまで理解できているかは自信がないが、自分の親戚が差別されてしまうかもしれないことには強い危機感を覚えた。

今回のエッセイのテーマを見て、私は真っ先にいとこの顔が浮かび、この人種差別の問題を書きたいと感じた。この問題をなんとかするために私たち高校生世代が考えること、できることは何だろう。

まず私たちは世界にはこのような問題があることを知らねばならない。私も今回改めて、人種差別の背景・歴史などを夏休みに調べてみた。数百年にわたる歴史、奴隷制度、ジム・クロウ法、キング牧師の存在などを再認識した。そして「ブラック・ライブズ・マター運動」は今回初めて起きたものではなく、七年前にソーシャルメディアで立ち上がり今年の運動がアメリカ史上最大級の運動となったと言われていることも知った。調べて知ったことを周囲の友人に話したり、学校で発表したりしていきたい。そして今後も海外で活動する方などに実際に話を聞いて認識を深めていきたい。今年は新型コロナウイルスの影響で学校生活は大きな影響があったが、この間オンラインで人と繋がれるスキルが身についた。オンラインで、海外の方とも距離を超えてすぐに繋がれるのはとても大きい。

次に考えるべきことは、この問題をなくしていくために私たちに何ができるか、ということだ。ヒントは私のいとこの交流にあると考えた。私は黒人という存在に触れたのは、いとこの交流である。だから、黒人という大きなくくりではなく、一人の人間であるダン君とケン君として出会った。黒人という人種の前に二人のいとこの優しい顔と声が思い浮かぶ。思えば人種差別やレッテルはいつもこの構造に起因しているように思う。会ったこともないのに「△△人は〇〇」などの大きなくくりで語ってしまう。一人の人として会って気持ちをつなぎ合えばきっと違ってくるはずだ。今はインターネットで簡単に繋がることができる。だから私は、様々な国の人々が人種や立場を超えて交流できるような機会を作りたいと思っている。私は小さい頃からお琴をやっていて日本の文化が好きであるので、各国の人が自国のことを紹介し合うようなイベントをしたい。もちろん共通言語が必要なので、今はそれを目指して英語を一生懸命学んでいる。

この春から私はニュージーランドに留学予定だったが、感染症の影響で残念ながら中止になってしまった。落胆したが、ぜひ機会をとらえて行きたいし、今回その時間を使って色々調べて、このエッセイにチャレンジすることができたのは貴重な経験となった。

「宇宙からは国境線は見えなかった」この毛利宇宙飛行士の言葉にもこの夏出会った。私たちの世代でこの数百年にわたる人種差別の問題を絶対に解決したい。